

# 自動ブレーキを知って考えよう！



こんにちは！和田保険事務所のみずきです。

ちょうど一年前の2017年4月発行の春号で、車の暴走事故について取り上げましたが、最近見る車のCMでは、「自動ブレーキ」搭載が取り上げられたり、保険でもASV割引（予防安全装備＝自動ブレーキの搭載）の割引などが始まったり、自動車の性能やそれに合わせて保険なども目まぐるしく変化してってます。

運転者のうっかりミス！の事故を減らせる技術って聞いたよ！  
素晴らしい技術だね！



そうだね。これで事故が減れば本当にいいよね！ただ、国民生活センターが自動ブレーキを買った2000人にアンケートを行った結果、491人が想定外の挙動を経験し、122人が事故を起こしていたというデータがあるんだ。

えっ！？それってすごく危険だね……。具体的にどんな現象が起きてるんだろう？



思いもよらない加速・減速があったっていうのが大半を占めるみたい。中には走行中に何もないのに停車してしまったという回答もあり、衝突されてもおかしくない危険な状態もあったみたいだよ。その原因として、とてもレアケースだとは思うけど、金網に反応したとか、白く大量に出た前の車の排気ガスに反応したという報告もあるんだって。“避けられない物体”と車が認識をしてしまうと急ブレーキをかけてしまうから、こういうことも起こり得るみたいだよ。

それじゃあ、自動ブレーキって安全じゃないの？



自動ブレーキのシステムや特徴を知って考えてみましょう！  
裏面に続きます。

## 自動ブレーキについて知ろう

### ▶ そもそもどんな機能なの？

自動ブレーキは、先行するクルマや歩行者など周囲の障害物を検知し、追突や衝突の恐れがある場合に音や警告灯などでドライバーにブレーキ操作を促す機能です。ブレーキ操作がなく追突や衝突が避けられないとシステムが判断した場合にのみ自動的にブレーキが作動する。自動車メーカーや車種によっては、カメラやミリ波レーダーなど検出器の方式が異なり、装置が作動する速度や条件にも違いがあります。

### ▶ 現在の普及率はどのくらい？

全車標準やグレード標準といった設定車ベースの装着率は2017年にトヨタ自動車が89%（レクサスを除く）、ホンダが90%、スバルが92.4%などとなり、多いメーカーで9割前後にまで達した。乗用車メーカーの販売全体に占める割合も17年は6割程度に高まりました。安全志向の高まりを背景に、メーカーが全面改良や一部改良で標準装着化を進めていることが普及ペースを速めています。

### ▶ 今後の車の変化は？

国土交通省と経済産業省が自動車メーカーは20年までにほぼ全ての新車（乗用車）に自動ブレーキとペダル踏み間違い時加速抑制装置を標準装備またはオプション設定する方針を定めました。先進的な安全技術を搭載した「安全運転サポート車」の愛称は、全ての運転者向けに「セーフティ・サポートカー（サポカー）」と命名されました。

また、75歳以上の運転者の死亡事故のうち、ブレーキ・アクセルの踏み間違いによる死亡事故は約7.4%。75歳未満の運転者の死亡事故でみると約0.8%にすぎず、高齢運転者によるブレーキ・アクセルの踏み間違いの事故は高水準にあるため、サポカーのうち、高齢運転者向けは「セーフティ・サポートカーS（サポカーS）」と名付け、ペダル踏み間違い時加速抑制装置などが搭載されていくそうです。



自動ブレーキ（衝突被害軽減ブレーキ）は、万が一の時に被害を軽減するためのシステムであって、あらゆる状況での衝突を防ぐ装置ではない。例えば人や自転車が急に飛び出してきた場合には作動しないこともあり、ドライバーは機能を過信せずに安全運転をする必要があるということです。自動ブレーキの他にも、車線逸脱防止装置、ふらつき注意喚起、踏み間違い防止装置…。ドライバーの安全運転を支援する機能を搭載した車が急速に普及していますが、これはどの機能にも言えること！あくまでも補助するシステムということ念頭に置いて、自らで安全確認を怠らないようにしましょうね！

和田保険事務所では、自動車、火災、傷害保険に限らず、生命保険や医療保険、年金や旅行保険等、様々な保険を取り扱っています！資格を持ったスタッフが、様々なリスクを想定し、あなたに合った保険をご提案させていただきますので、わからないことがあればお気軽にご相談ください。いつでもご説明に伺います！ご親族様やご友人のご紹介等ございましたら、和田保険事務所までご連絡をお願い致します。